４　主要作物生育、作柄の概要

１）農作物生育状況

（１）普通作物

① 水稲（平年並　作況指数　県北部９９　県中部９９　県南部９９）　　農林水産統計より

［早植栽培］　（経営技術課情報より）

・４月の低温と日照不足の影響で、苗の生育は遅れ気味で苗丈はやや短かった。病害は一部でムレ苗等が見られたが全体的に発生は少なかった。
・５月上旬の好天により田植後の活着は良好で初期生育も順調に進み、草丈、茎数ともに平年を上回り、葉色もやや濃くなった。
・５月第６半旬～６月第１半旬の低温で生育が遅延し、草丈はやや低く、茎数は少なくなった。梅雨に入ってイネドロオイムシの発生が見られ、箱施用剤を使用していないほ場では多発した。
・生育中期は６月中旬以降の高温の影響で草丈は高く、茎数は少なく、生育は4～9日進んだ。
・出穂期は高温で経過したため平年より６日早くなった。稈長、穂長が長くなり、穂数は少なかった。
・出穂後も高温で経過したため登熟日数は平年より２日程度早まり、成熟期は８日早まった。

［普通植栽培］　（経営技術課情報より）

・苗の生育は、５月下旬～６月上旬が低温、寡照になったことにより、ばらつきが見られた。
・田植は、前作麦の刈り取りが遅れたことから2日程度遅れたが、６月中・下旬の高温により活着は順調で茎数は並～多かった。
・７月の高温の影響で生育は進み、草丈はやや高く、茎数はやや多かった。
・７月中旬から８月上旬まで気温がかなり高く経過したことにより、草丈は伸びたが茎数が抑制されやや少なくなった。
・８月上中旬も気温が高く推移したことから、出穂期は平年並からやや早まった。
・登熟日数は１日程度早まり成熟期は３日早まった。登熟期間が異常高温・多照・少雨で経過したため、登熟歩合・千粒重は平年並、収量はやや低くなった。

表　主要品種の生育概況（生育診断ほ平均）　（経営技術課より）

品種	出穂期		成熟期		登熟日数		登熟歩合（%）		収量(kg/10a)	
	H22年	平年	H22年	平年	H22年	平年	H22年	平年	H22年	平年
コシヒカリ（早植）	7月28日	8月3日	9月8日	9月16日	41.7	43.7	81.9	79.8	578	557
あさひの夢（普通植）	8月24日	8月26日	10月10日	10月13日	47	48	80.7	80.4	514	526

参考：品質の概況（平成22年11月15日現在）　（全農とちぎ調べ）

・１等比率コシヒカリ74.1%、あさひの夢51.3%、なすひかり82.8%。
・２等以下各付け理由の上位は、心白腹白47.9%、胴割粒23.9%、カメムシ類11.3%。

② 麦類（平成２２年産）　　（経営技術課情報より）

収量（対前年比）　小麦：９４　二条大麦：９４　六条大麦：９５　　農林水産統計より

・１０月下旬～１１月上旬の降雨により播種が遅れたが、年内は高温で経過したため出芽はほぼ順調で一定の苗立ち数が確保された。ただし、一部の排水不良圃場では出芽不良が見られた。
・年明け後平年並の気温だったが、２月下旬以降は高温で経過したため茎立期は一気に進んだ。
・３月下旬～４月の低温と日照不足によりそれまで進んでいた生育が停滞したため、出穂期は平年に比べ二条が４日、六条が３日、小麦が２日遅れた。また、３月３０日～３１日の低温（－3℃）による幼穂凍死が県北で発生した。
・小麦（農林６１号やタマイズミ）で縞萎縮病の発生が県内全域でみられ、特に県央では減収を避けられないほ場が散見された。赤かび病の発生は全体的には少なかった。
・収穫は平年よりやや遅れた。収量は４月の低温と日照不足による小粒化に加え、湿害と５月上中旬の高温により粒の充実不足もあり、低収だった。
・二条大麦では側面裂皮粒の発生が多く、特に早播きまたは生育が劣悪で収穫時期が早いほ場で多くみられた。

③ 大豆　　（経営技術課情報より）

・播種作業は平年並に始まったが、６月第４半旬～７月第３半旬まで降雨日が多く、作業が著しく滞ったため播種作業終了が１週間程度遅れた。多雨の影響で出芽不良や初期生育不足のほ場が平年より多く見られた。
・６月第４半旬以降、気温はかなり高く経過したため、開花期は平年より７～１０日程度早まった。
・気温は９月中旬までかなり高く経過し、降水量が少なかったため、県内全域でハスモンヨトウが多発生し、葉に著しい食害を受けた。また、カメムシ類の被害もやや多かった。シストセンチュウやコガネムシ幼虫による被害は平年並に散見された。
・１０月上旬以降でも本年は黄葉せず青立ちするほ場が目立った。このため子実が成熟しても収穫できず、収穫開始が平年より１０日以上遅れた。著しい青立ちのため収穫放棄のほ場も一部に見受けられた。
・茎水分が高めでも収穫するほ場もあり汚損粒発生の原因となった。また収穫遅れによるしわ粒も発生して品質を落とした。紫斑粒の発生は平年並からやや多だった。

（2）野菜

①　いちご

- 平成 22 年産本ぽ（並　生育期間：平成 21 年９月～22 年５月）

花芽分化は、夜冷育苗では概ね平年並であったが、ポット育苗では遅れた。８月中旬に炭疽病の発生が見られた。一部定植遅れのほ場も散見されたが、９月の好天により作業は順調に進んだ。定植後の生育は概ね順調であったが、頂花房の花数はやや少ない傾向であった。１次腋花房の開花はバラツキがあり、平年より遅れ気味であった。作柄は概ね平年並であった。

病害虫は、定植直後からうどんこ病、ハダニ類の発生が多く、３月には灰色かび病発生が多くなった。

- 平成 22 年産親株～苗（平成 22 年５月～９月）

採苗仮植は概ね順調に行われたが、７月の日照不足の影響で葉の展開がやや遅く、軟弱傾向となった。炭疽病、萎黄病の発生が散見された。

②　トマト

- 冬春トマト（並　生育期間：平成 21 年 10 月～22 年６月）

生育は９月の低温、乾燥の影響でやや遅れ気味であった。冬期の天候不順の影響を受け、小玉果や空どう果が一時多くなった。生育の遅れから例年より収穫段数が１段程度遅れ、出荷量が少なめで推移した。作柄は概ね平年並であった。

病害虫は、10 月から 11 月はうどんこ病が多い傾向であったが、その後の発生は少ない傾向であった。12 月以降は、天候不順の影響により、各地で灰色かび病が多発した。

- 夏秋トマト（並　生育期間：平成 22 年５月～20 年９月）

日照不足による生育への影響は少なく、作柄は平年並であった。病害虫の発生は全般に少ない傾向であった。

③　なす

- 夏秋なす（並～やや不良　生育期間：平成 22 年６月～11 月）

７月の高温、乾燥により生育が遅れ、一部でヘタ枯れ症状が発生した。９月も高温乾燥により草勢弱く、収穫・出荷量は少なめとなった。作柄は全般的に並からやや不良であった。病害虫は、アザミウマ類の発生が多かった。

④　きゅうり

- 夏秋きゅうり（並　生育期間：平成 22 年６月～９月）

高温乾燥の影響により一部に生育の遅れが見られたが、作柄は概ね平年並であった。

⑤　にら

- 冬どり（並～やや不良　生育期間：平成21年９月～平成22年５月）

養成株は、８月までの天候不良と乾燥の影響から全体に生育が遅れ、株の充実不足がみられた。９月には乾燥によりアザミウマ類、ハスモンヨトウの発生が増加したが、生育は平年並であった。新植株の保温開始時期は、ほぼ平年並みであった。一部で 12 月に白斑葉枯病、４月に乾腐病、株腐細菌病の発生が多くなり、作柄は全般に平年並からやや不良であった。

⑥　ねぎ（やや不良　生育期間：平成 22 年２月～11 月）

８月の猛暑の影響で全体に生育が遅れ、葉鞘の太りもやや細めとなった。全体にべと病、黒斑病の発生が見られ、ヨトウムシ類、アザミウマの発生が多かった。

⑦　たまねぎ（やや不良　生育期間：平成21年９月～平成22年６月）

４月までの低温と日照不足で生育遅れがみられ、５月以降べと病の発生が急増した。玉の肥大は小玉傾向で、作柄はやや不良であった。一部でべと病の多発ほ場が見られた。

⑧　レタス

- 秋冬どりレタス（不良　生育期間：平成 22 年８月～11 月）

８月からの乾燥により播種・定植作業が遅れ、播種・定植された株でもまき直しや萎れ等、生育停滞や生育不良のほ場が各地で出た。収穫時期は全般に遅れ、玉は小玉傾向で、作柄は不良であった。

（３）果樹

①　なし（並）

幸水の催芽期は平年より２日早かったが、開花期、収穫期は平年より４日遅れ、果実肥大はやや小玉であったが、糖度は平年よりやや高めであった。豊水の品質は平年並で食味は良好であった。

病害虫は、生育初期から黒星病の発生が多かったが、８月には平年並の発生に落ち着いた。

②　ぶどう（並）

巨峰の催芽期は平年より６日早く、開花期はほぼ平年並であったが、収穫盛は平年よりも１３日早かった。房重は平年よりも小ぶりで、糖度は平年に比べやや低かった。

病害虫は、６月から７月に黒とう病が多く、９月にハスモンヨトウの被害が散見された。

③　りんご（並）

ふじの催芽期は６日早かったが、開花期は平年より２日、収穫期は７日遅かった。果実肥大は平年よりやや劣ったが、品質は平年並であった。病害虫は、炭疽病、褐斑病の発生がやや多かった。

④　くり（並）

催芽期は平年よりも遅く、開花期はやや早く、収穫期は７日遅くなった。果実肥大は良好であった。

病害虫は、炭疽病の発生は平年より少なかったが、クリシギゾウムシ、モモノゴマダラメイガの被害はやや多かった。

樹種名	品種名	催芽期		開花盛		収穫盛		果実重	糖度
		月日	平年差	月日	平年差	月日	平年差	g	Brix%
な　し	幸水	4/2	-2	4/28	4	9/4	4	379	12.1
	豊水	3/30	-7	4/24	4	10/2	6	461	12.8
ぶどう	巨峰	4/12	-6	6/9	-1	9/14	-13	248	17.7
りんご	つがる	4/1	-5	5/2	3	9/17	9	234	13.7
	ふじ	4/2	-6	5/3	2	11/16	7	362	14.6
く　り	筑波	4/15	5	6/21	-3	10/4	7	23	

注：催芽期、開花期、収穫期の平年差の－は、早くなったことを示す。
なしは過去 10 年間の移動平均。ぶどう、りんご、くりは 1970～2000 年の 30 年平均。

（農業試験場果樹研究室より）

（４）花き

きく（並）

夏季高温の影響により一時開花が５日程度遅れたが、年間を通して、生育は概ね平年並であった。病害虫については、１月から６月は白さび病の発生がやや多く、１０月から１２月はアザミウマ類の発生が目立った。ハダニは年間を通して少なかった。